

座間支援学校 学校運営協議会 議事録			開催日	令和6年5月23日(木)	
会議名	令和6年度 県立座間支援学校 第1回学校運営協議会				
開催方法	集合	開始時間	9:45	終了時間	11:55
場所	本校会議室			参加人数	20名
<p>1 はじめに</p> <p>○校長あいさつ</p> <p>・この4月に着任した。コロナ感染症が5類に移行し、アフターコロナ元年となる。今年度の始業式は久しぶりに全児童生徒が一堂に会して開催できた。この学校運営協議会は令和2年度より全校設置、今年で5年目となる取組である。詳しくは配付資料でご確認いただきたい。地域ならではの創意工夫を生かした教育活動の実践について熟議を重ねていくことが目的。地域、学校それぞれが win - win の関係性を目指せると良い。特別支援学校は地域の学校と異なり理解が難しい面があるため、学校からの説明が多くなる傾向があるが、なるべく簡潔にお伝えしたい。どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>○委員自己紹介(略)</p> <p>○教職員自己紹介(略)</p> <p>2 学校運営について</p> <p>○新たなミッションとグランドデザイン</p> <p>・(校長)座間支援学校はインクルーシブな学校づくりを目指している。校内で多様性を認め合う場づくり即ちインクルーシブな学校づくりを進め、その取り組みを地域に発信、地域のインクルーシブ教育推進を進めていきたい。</p> <p>○令和6年度から4年間の目標の策定</p> <p>(4年間の目標説明)</p> <p>○意見交換</p> <p>・(委員)分かっているようで分からないという部分が正直ある。県に提出した後はどうなるのか?→4年間の長期目標に基づいた今年度の目標を示していく。</p> <p>・(委員)子どもが5年間通学しているので大体方針は理解しているつもりだが、分からないことだらけとも言える。→保護者の方が分かることを大切にしていく。</p> <p>・(委員)先生方がアセスメントを通して丁寧に支援していることがこの協議会を通じて分かる。児童発達支援として、障害のある子どもたちが地域の学校でとても苦労していると感じている。センター的機能でどのくらい地域の子どもたちが救われているのか知りたい。保育所等訪問(児童発達支援)、放課後等デイサービスなど様々な地域の組織と連携できる仕組みがあると地域の中で子どもたちが安心して育っていけると考える。→「関係機関との連携」に含んで進めていきたい。</p>					

- ・(委員) 関係機関に「等」を入れると良いのでは。→色々なところと連携して進めていくことを目指す。
- ・(委員) 「インクルーシブ教育」とはどのような教育なのか? →障害のあるなしに関わらず子どもたちが共に、できるだけ同じ場で学ぶ。地域の学校の子どもたちと一緒に学ぶ場をつくって、増やしていきたいと考えている。
- ・(委員) インクルーシブな社会、共生社会を作っていこうと国は言っている。教育の場では地域に住んでいる子どもたちが一緒に学ぶことができることを目指すが、現実はまだ難しい面があるためまずは交流等の取り組みをしている。
- ・(委員) 「ミッション」とは? →言わば県からの「宿題」のようなもの。
- ・(委員) 連携の必要性をすごく感じている。小学校でも支援を必要とする子どもが増えている中、多様性を認め合いながら学校生活を送るためにセンター的機能を活用したい。6月の田植えでは今年度も一緒に泥んこになりながら交流できることを楽しみにしている。
- ・(委員) 「かなエール座間」は何名いるのか? →4名が作業しており、数名のマネージャーが付いている。新卒の若い方が多い。
- ・(委員) 高校は3年間のみ。支援学校は小学校から12年間、肢体不自由教育部門・知的障害教育部門と幅が広い中で取り組むことの大変さが伺える。①「主体的な進路選択」はどのように取り組むのか? 肢体不自由教育部門の生徒の主体的な進路選択について、具体的なところを知りたい。→重心の方でも実習時の表情の読み取り等で意思を把握することができる。進路に限らず、どのような生活を目指したいかを様々な経験を通して読み取っていく。→表記としては実態を反映できるような工夫が必要ではないか。→一方通行ではなく、双方向のやり取りが読み取れる表記に変更し、変更点を次回お伝えする。②「児童生徒と向き合う時間の確保」とあるが、普段からできているのではないかと感じる。→授業準備の時間も含めて「児童生徒と向き合う時間の確保」と考えている。→「子どもたちと向き合うための」等、誤解を招かない表記に変更する。

### 3 学校評価部会

#### ○今年度の学校目標について

- ・(委員) 一人一台端末の評価の観点予算に関わるので学校の努力では達成できない部分もある。教員のスキルアップ等追記できると良いのでは? →教員のスキルアップも含め環境を整えることを評価の観点としている。
- ・(委員) 今子どもたちにやってもらっていることが明記されているので特に質疑はない。
- ・(委員) 業務のスリム化とあるが、教職員の人数が足りないという状況はあるのか? →児童生徒数に応じた定数で配置されているが、産育休などを取得する教職員の補充が難しい状況はある。ただ、特別支援学校はそもそもの教職員が多いのでカバーし合える。
- ・(委員) 校内の老朽化について今年度の取り組みは? →計画的に対策をしており、今年度は設計、次年度より工事の期間となる。
- ・(委員) 施設が新しいことは大切。老朽化対策をぜひ進めていただきたい。ICT教育、防災等について

は本校の取り組みもぜひ参考にしてもらいたい。

・(委員) ①4年間の中でどう進めていくのかの取り組みの見通しはどうなっているか? ②学校運営協議会の委員は何をすべきか分かると良い。③評価の仕方はどうなるのか? 何をもって評価するか? ④センター的機能とインクルーシブ教育推進は並立しない。「センター的機能の充実を図ることにより」の方がふさわしい。⑤老朽化対策の今年度の設計について掲載してよいのではないか。

○各学部、校務グループの今年度重点取組について

(各学部、グループからの重点取組及び部会の活動の説明)

○意見交換

・(委員) 相模向陽館、有馬、本校の交流は作業を中心に進めるとより交流が深まるのではないかと思う。分教室の業務改善に向けた話し合いとあるが、フォームスのアンケートを活用すると効率よく進められるのでは。

・(委員) 教職員の端末整備はどうか? →高校から借用しているクロームブック、本校のPC等を使用していく。今ある環境の中での工夫、他校との実践のシェアをしながら進めていく。

・(委員) ICT推進は大きな変化と感じた。「輝く座間の子」の対象は何名か? →高Aでは全員は難しく、恐らく半数程度。しかしその取り組みが根付くと自然と教員間で子どものことを話す土壌がより育っていくと考えている。アセスメントツールは? →授業に役立てるための簡易的な検査キットを用いる。

・(委員) たくさんの取り組みがあることを知った。今後の進捗を聞きたい。

・(委員) WordやExcel等は使えるのか? →Googleの同様アプリを使用して学習を進める。

・(委員) 策定会議のように外部の方が入る会議は高等部でもあるか? →進路面談は校内の人間だけだが、間接的な関わりを持っていく。

・(委員) ①肢体不自由教育部門のICT機器の活用(アクセシビリティ)はどのようなもの? →視線入力をはじめ、一人一人の実態に合わせた取り組みをこれから考えていく。②アセスメントは達成度をはかるものか? →全体像、背景も含めて把握する。③「地域」は、子どもたちにとっては居住する場も「地域」となる。混同しないよう、分かりやすい説明が必要。④子どもに関わるスタッフにぜひ栄養教諭を入れていただきたい。⑤指導研究部の「教師の専門性の向上に寄与する」は非常に重要と感じた。⑥これらの取り組みは保護者にいつ説明するのか? →明日の全校保護者会で説明をする。⑦部会の説明であった「協力」は手伝いではなく、共に行うという風に捉えてほしい。

・校長より 今日お話しした内容だけが学校の取り組みではなく、具体的なものは学校評価にとっても書ききれない。特別支援学校の実態を知ってもらうため、機会があればぜひ学校行事等にもご参加いただきたい。

#### 4 事務連絡